

所論諸論



谷口 博昭  
芝浦工業大学  
工学マネジメント研究科客員教授

昨年10月久慈市に訪問  
の折、久慈から古代奈良  
の都へとバルト海から地  
中海沿岸都市への琥珀の  
道を示した二つの地図を  
見る幸運に恵まれた。加  
えて、2月中下旬、P I  
A R C (世界道路会議)  
冬季大会参加のためバル  
ト海の琥珀流通拠点であ  
るグタニスクを訪問する  
機会を得た。わが国は街  
道・道の文化、欧米は広  
場・都市の文化と称され  
るが、「向う三軒両隣」  
の地域社会形成と城壁都  
市形成という相違はある  
ものの、モノ・情報の交  
換や文化交流など道を行  
き交い道により発展して  
きた歴史や道の果たす役  
割は古今東西普遍である

ことを再認識した。8月  
の「道路ふれあい月間」  
にちなみ、琥珀の道に触  
発され思い出したシユラ  
イバー著『道の文化史』  
『道の文化史』であった。  
「琥珀の道」の次は二  
他にも、第2楽章一  
その時代の主な商品の名  
によって、琥珀の道とい  
う名前がつけられたので  
ある。”と記されている。  
同様に、沿線の生活必需  
品と共に琥珀の広域的交  
流があり、久慈から古代  
奈良の都に至る街道が長  
い年月をかけ形成された  
ものと推察される。

# 「琥珀の道」から「道の文化史」へ

を以下に紹介する。  
『道の文化史』を知っ  
たのは昭和40年代後半、  
建設省近畿地方建設局係  
長の時だった。伸長顕著  
なモータリゼーションに  
道路整備がキャッチアッ  
プできない時代で、賢く  
歴史文化に学び需要追隨  
で無く国土、地域社会、  
都市や暮らしとの関わり  
中で道路のあるべき姿を  
追及することが肝要であ  
る。『道の文化史』を紐解  
くと、サブタイトルに  
「一つの交響曲」とある  
ように第1楽章から第4  
楽章までの構成になって  
おり、第1楽章アダージ  
ョ・モダートの最初が  
「琥珀の道」である。  
紀元前1900年から  
3000年までの間に、中  
部、東部ヨーロッパは定  
期的に商人の通る4本の  
商業路によって貫かれ、  
「神聖なわだち」「二すべ  
の道はローマに通ず」  
や「道路の交響曲」一つ  
のエピソードのシャ  
ンゼリゼーやウンター・  
デン・リンデン街の由来  
などリベラルアーツを駆  
使しての示唆に富む記述  
が満載だが、詳細は割愛  
しここでは『道の文化史』  
の序言を以下に紹介する  
にとどめておきたい。  
「道は人間と同じく古  
く、同じく新しい。そし  
て各世紀が新たに道を作  
られねばならない。われ  
われが「道のない」中世  
の例から、道路建設に関  
する限り過去の遺産を食  
ってゆくわけにはいかな  
いことを認識し、現代の  
要請にしたがって新たに  
道を作るならば、道は過  
去の多くの時代と民族に  
とってそうであったよう  
に、われわれの時代にと  
っても生命の動脈となる  
であろう。」  
『道の文化史』に学び、  
暮らしや経済活動を支え  
る最も基礎的なインフラ  
である道路を食いつぶす  
ことなく良質な「生命の  
動脈」として次世代にし  
っかりと継承することが  
現代の責務であろう。」

〔注〕文中引用は『道の文化史』(関楠生訳、岩波書店、1979年10月30日第13刷発行)に基づき筆者が要訳

# 論 諸 論



谷口 博昭

芝浦工業大学客員教授

2023年度「道路ふれあい月間」推進標語中学生の部の最優秀賞「こ

これに鑑み、地域社会の再生を夢見て「点から線・面へ」「道路区域から沿道・その周辺へ」「車から人へ」を重視し、「道ルネッサンス」を提唱。有識者委員会に続く

「向こう三軒」が分断。スプロール化と核家族化に伴い「両隣」意識が薄れ、「街道、道の文化」がないがしろにされてきた。

「向こう三軒」が分断。スプロール化と核家族化に伴い「両隣」意識が薄れ、「街道、道の文化」がないがしろにされてきた。

「向こう三軒」が分断。スプロール化と核家族化に伴い「両隣」意識が薄れ、「街道、道の文化」がないがしろにされてきた。

## 「道の文化」にふさわしい道路の活用と整備・保全

「道の文化」と称される。「みち(道)」は「み」に意味はなく「ち」であり、「ち」が分かれる「ちまた」に市が開かれ、人、物が集まり、「ち」・街道沿いに人家が連坦し、街・町が形成されてきた「街道、道の文化」だ。

任の04年ころ、自動車関係諸税による道路特定財源に批判が高まる一方、1993年に制度化された「道の駅」は好評だった。「道の駅」は好評だった。

戦略会議(委員長＝奥田碩経団連会長(当時))の議論を経て、米国のインターステイトハイウェイ概成の89年に成立した「シーニックバイウェイ(景観に優れた街道)」の日本版と言える「日本風景街道」が2007年現在145地区が登録されている「日本風景街道」の一つで、東日本大

震災を乗り越え精神的に活動する「ふくしま浜街道ハッピーロード」を紹介する。NPOハッピーロードネット(HRN)は国道6号の清掃や「みちと育成・維持管理など」とまち」を考える会などの活動を展開する中、浜通りの復興を切望する高校生の提言を受け、30年後の故郷に2万本の桜で帰郷者を迎えようと「桜プロジェクト」を開

「道の文化」にふさわしい道路の活用と整備・保全

「道の文化」にふさわしい道路の活用と整備・保全

「向こう三軒」が分断。スプロール化と核家族化に伴い「両隣」意識が薄れ、「街道、道の文化」がないがしろにされてきた。

「向こう三軒」が分断。スプロール化と核家族化に伴い「両隣」意識が薄れ、「街道、道の文化」がないがしろにされてきた。

「向こう三軒」が分断。スプロール化と核家族化に伴い「両隣」意識が薄れ、「街道、道の文化」がないがしろにされてきた。

「向こう三軒」が分断。スプロール化と核家族化に伴い「両隣」意識が薄れ、「街道、道の文化」がないがしろにされてきた。

「向こう三軒」が分断。スプロール化と核家族化に伴い「両隣」意識が薄れ、「街道、道の文化」がないがしろにされてきた。

「向こう三軒」が分断。スプロール化と核家族化に伴い「両隣」意識が薄れ、「街道、道の文化」がないがしろにされてきた。